インドネシア農業研究協力計画 エバリュエーション調査 報告書

昭和53年11月

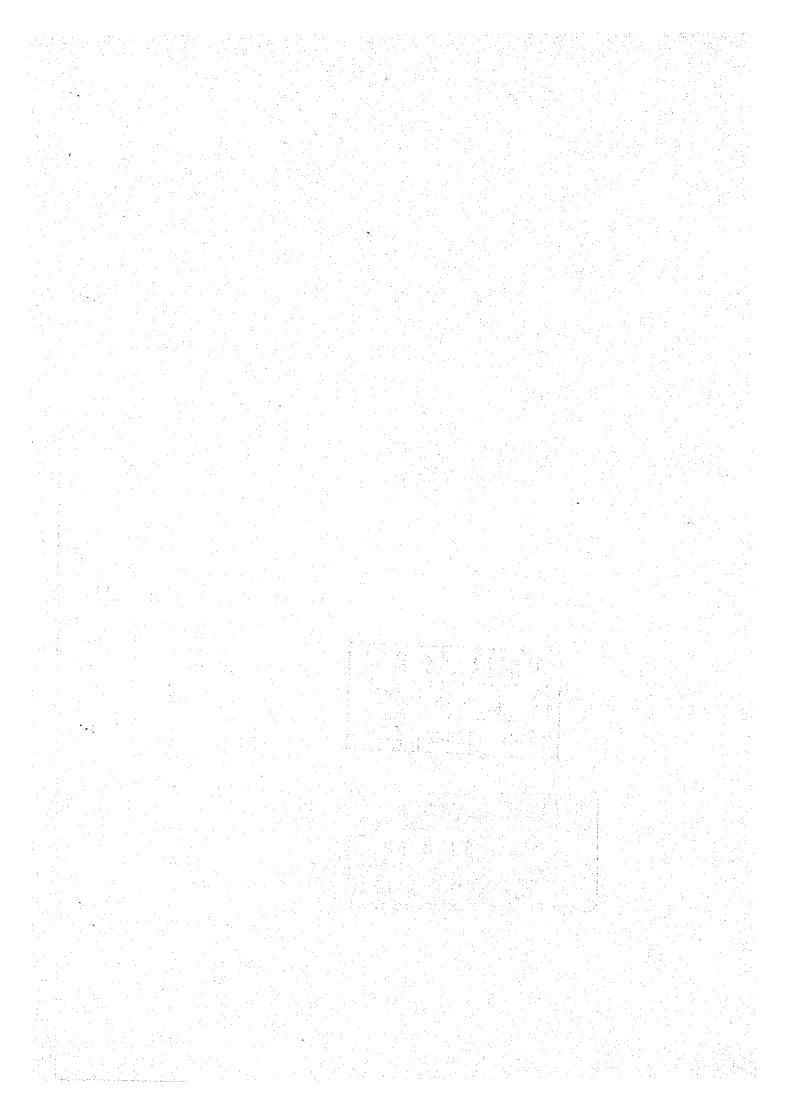
国際協力事業団農業開発協力部

農 開 技 , J R

rando de la como coma casa de actual de moderna a acesta de acesta de acesta de acesta de acesta de acesta de c
그 사람이 동생일을 이렇게 하는 동물을 만드라면 말했다면 하는 그리고 말하는 때 보았다. 한 글 살 살 하는 바람이 되었다.
그는 함께 회사를 보고 있다. 그렇게 모르는 바로에 되면 한 세계 입니다. 나는데 사람들은 경기를 하는데 어디 사고를 했다.
그렇는 이번째 제작되는 밤에게 있는 어떻게 되었다. 그는 2000년 그는 나는 말로 변환했다.
어머니에는 아이는 사람들은 아이들에 가장 하는 것이 되는 사람들은 사람이 되고 사람들은
는 기본에 하고 있다는 그 보고 있다. 그는 것이 되는 것이 되는 것은 사람들이 되는 것이 되었습니다. 그런 되었는 것이 되는 것이 되는 것이 되었다. 그리는 것이 되었다. 그는 전문을 하는 것이 되었습니다.
그렇도 있는 사람들이 하는 사람들이 하는 것이 하는 것은 것은 하고 하는 것 같아. 나는 가장 말했다.
그는 환경으로 하고 그 사람들은 것도 있었다. 이 그러워 있는데 문 전략 골든한 모든 이 문학학을 입었다. 불학이었다면 하다.
그리고 있는 아름을 다니다고 하는 사람들이 다니다. 한 사람들은 다리 하는 사람들이 다른 사람들이 되었다.



国際協力事	業団
受入 月日 '84. 4 5	108
登録No. 02662	ADT



昭和45年(1970年)10月23日、日本・インドネシア両国政府は、インドネシア共和国ボゴール市に本拠を置く中央農業研究所(Central Research Institute for Agriculture; CRIA)において、食用作物の植物保護分野における日・イ共同研究計画を実施することに合意いたしました。

爾来8年我が国は延べ34名の専門家を派遣し、約3億5千万円の研究機器材を供与して、水稲を主とした植物保護分野の各種調査・実験を実施し、インドネシア側研究者の研究能力の開発、研究環境の整備に努めてきました。また、これまでに日本の農業研究機関において研修を行ったインドネシア側研究者の数は24名にのぼっており、これら研究者は、本計画の大きな推進力となっております。

農業研究協力のプロジェクト方式として草分けである本計画は、成功裡に実施され、その後開始された韓国、ブラジル等における農業研究協力プロジェクトの先駆的役割を果してきております。これまでに得られた数々の成果は、Progress Report, CRIA Contributionとして出版され、また学会やシンポジュウムに発表され、内外から高い評価を得ております。これも、ひとえに、プロジェクト設立当初より、派遣専門家リーダーとしてプロジェクトの実施運営にご尽力いただいた岩田吉人氏をはじめとする専門家の方々の御努力の賜と深く感謝申し上げます。

こうした過去8年間の成果をふまえて、本年6月、新たに、インドネシア政府より、畑作栽培研究の強化を目的として引続き、研究協力を実施してほしい旨要請がありました。当事業団としては昨年11月に実施した巡回指導チームの予備的調査を基として、本協力要請に前向きに対処していくこととして関係機関との調整を進めてまいりました。

5 3 年 7 月にはエバリユエーション調査団を派遣し、過去 7 ケ年余の研究成果と実施運営上の 問題点の把握及び、新たに要請のあった研究協力に対する実質的な実施協議を行いました。

このエバリコエーション調査団の調査結果に基づき、10月にはR/D署名チームを派遣し、 意見交換ならびに討議を行った結果、インドネシア関係当局と合意に達し、1978年10月 23日よりむこう5ヶ年間の合意議事録に署名することができました。

過去8年間にわたる食用作物の植物保護分野における協力が所期の目的を達成したという日・ イ双方の評価に基づき、今後は作付体系に関連した豆類を主とする畑作物関係の研究強化計画と して協力が継続されることとなりました。

最後に、本報告をとりまとめられたエバリコエーションチームの松実団長およびR/D署名チームの北野団長以下団員各位に対し感謝の意を表しますとともに、種々ご指導ご協力をいたゞきました外務省、農林水産省、在インドネシア日本大便館、岩田団長はじめ派遣専門家各位及びイ

그리 그런 사람이 맛이 먹는 어떤 나는 하는 그리는 그는 사람이 하고 있다. 그리는 사랑 살았다면서는 무슨 그리가 되었다.
그는 하고 되는데 그리다 그 모든 그리다고 그렇게 하는데 하는데 그리는데 그렇지만 그리고 말을 걸렸다는데
그리아 그 사람의 문제 되는 기록을 하다면 다른 사람이 본 위 통화가 하지 않고만 한 때문에 걸었다. 그리아 모양이 가는 사람이
그는 이 전 그는 그는 그는 그를 보고 있는 사람들이 살아왔다. 그를 보는 사람들이 살아 되는 사람들이 어떻게 되었다.
그는 사람들은 사람들이 되는 사람들이 많아 가는 사람들이 모두 보면 하지만 사람들이 가는 것 같아.
,一个大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大大
그는 이 사이스로 취실되는 전략 특별은 학교에 이번에 대한 경우가 이익되는 학교에 이번 과장 되는 일이 있는데 모양되었다.
。
그는 어떤 그는 이번, 그는 바다는 이 어린 사람이 하는 것이 하는 사람들에 가장 하는 것이 되었다. 그렇게 하는 것이 없는 사람들이 살아 없는 것이다.
그는 가장 본 선물님 그리가 적인 생활을 하고 한 때 가게 되었다. 그는 그는 그는 가족들은 물로 가는 것 같다.

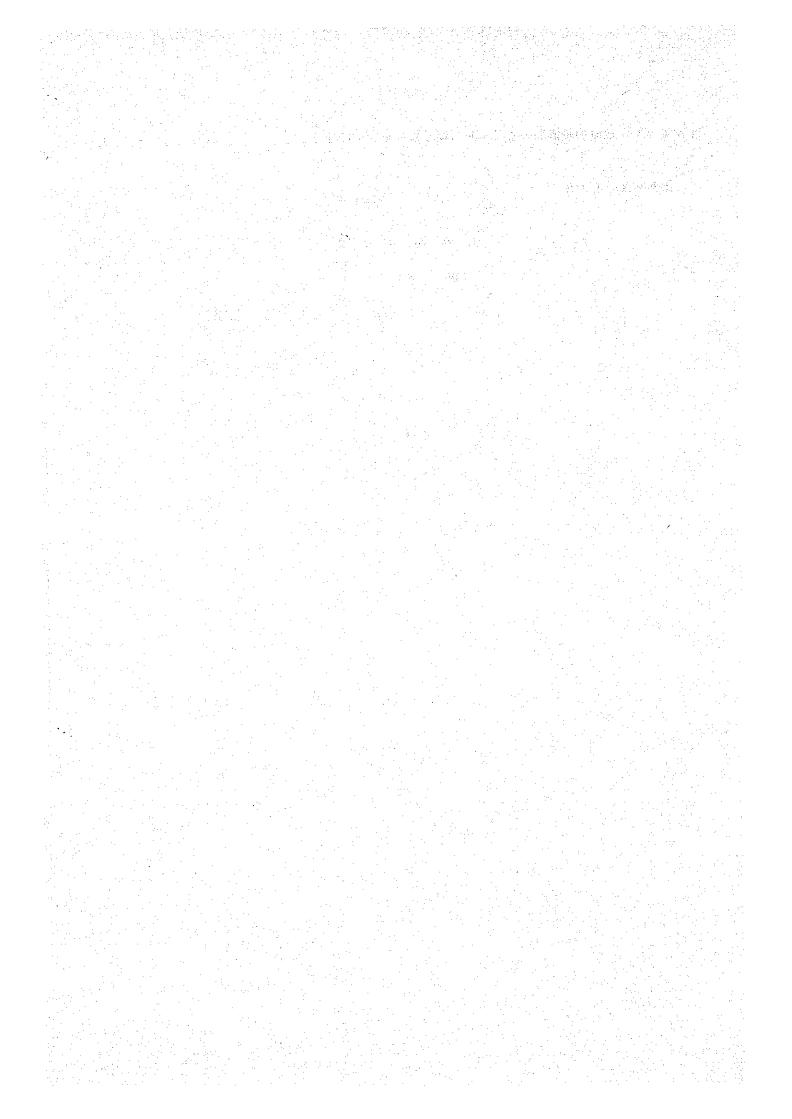
インドネシア政府関係機関の各位に対し厚く御礼甲し上げます。

昭和53年11月

国際協力事業団

総 裁

法 眼 晋 作



わが国とインドネシア共和国との食用作物に関する共同研究計画による研究協力は、期間延長3ヶ年を合せて発足以来満8ヶ年の協定期間を、本年10月22日をもって無事終結することとなりました。

本研究協力プロジェクトは、わが国の数多い海外技術協力事業の中で、研究分野での協力事業としては先駆的役割を果たしたばかりでなく、その成果は日本・インドネシア両国においてのみならず、国際的にも高い評価が与えられて参りました。

しかし、それまでの『道程』においては、チーム、リーダー、 岩田吉人氏をはじめとして、日本派遣専門家各位の、数多くの困難を乗り越えるための並々ならぬ御苦労と御努力があったことと推察致します。

先般来、インドネシア側より現研究協力の終了後、引き続いて畑作栽培技術の改善を中心とした新しい研究協力プロシェクトの実施について強い要請が出されておりましたが、そのことも現研究協力の稔り多い成果の反映であり、証明でもあると考えます。

本報告書は、本年7月に派遣されて行った、現研究協力プロジェクトの最終的かつ総括的エバ リユエージョン調査の結果をとりまとめたものであり、同時に次に予定されている新しい研究協力計画に関してインドネシア政府関係者と協議した結果の概要を報告したものであります。

今回の最終的なエバリユエーション調査にあたり、前回の中間エバリユエーション調査(昭和52年11月)に引き続いて、再度、私が団長として派遣される光栄に浴しました。その幸運に感謝致しますとともに、あらためて、岩田吉人氏をチーム、リーダーとする日本専門家チームの偉大な輝かしい研究協力の成果に対し、深甚なる敬意を表するものであります。

と同時に、新しいブロジェクトとして発足が予定されている次期研究協力が、現プロジェクト の偉大な輝かしい研究協力の成果を傷つけるものであってはならないし、その成果の上に立って 更に発展すべきことを哀心より念ずるものであります。

おわりに、今回の調査にあたり、御援助と御協力をたまわった外務省、農林水産省、試験研究機関、国際協力事業団の関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。またインドネシアにおいてお世話になった日本大使館、JICAシャカルタ事務所の方々、岩田団長はじめ派遣専門家各位、ならびにインドネシア政府関係機関の方々に心からお礼を申し上げます。

更にまた、今回の調査団のメンバー各位には調査中御協力をいたゞき、また本報告書作成に御苦 労をおかけしました。心から感謝致します。

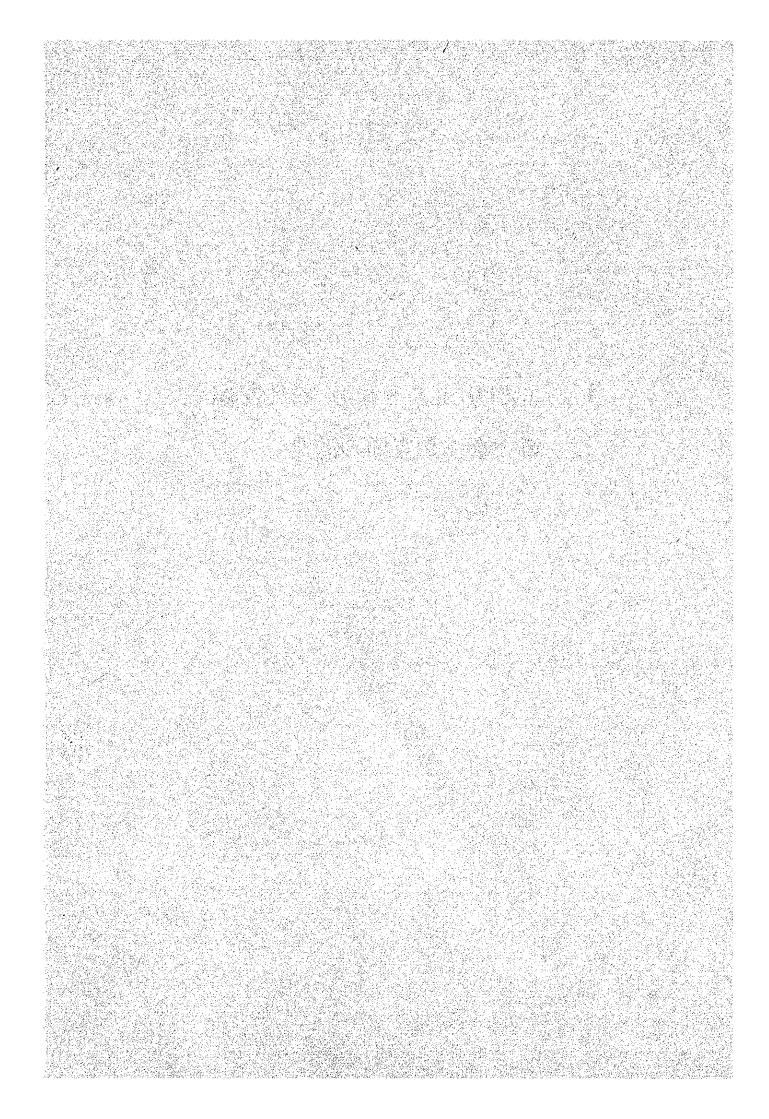
昭和53年8月

インドネシア農業研究協力エバリユニーション調査団

		en ala lista de la capación de la capación.
	하는 사람들이 보고 있다. 그런 그 사람들은 사람들이 되었다. 그는 사람들이 되었다. 그런 그 사람들이 가장 하는 것이 되었다. 그는 것이 되었다. 그런 그 사람들이 되었다. 	
はじ	[콜럼프리아 이번 일본 12] 16 [12] - 16 [14] 16 [16] 17 [17] 17 [17] 17 [17] 17 [17] 17 [17] 17 [17] 17 [17] 17 [17] 17	
あら	마른 발음 시간 사람들이 있는 것이라는 그 것이다. - 기를 맞은 사람들이 있는 것 같아요. 그는 그 것도 있는 것 같아요. 그는 것 같아요.	
44- Tr. 2004	경기 (1985년) 1일 전 1985년 (1985년) 1일 전 1985년 (1985년) 1일 전 1985년 (1985년 1985년 1985년 1985년 (1985년 1985년 1985년 1985년 1982년 - 1982년 (1985년 1985년	도 15 기 및 15 일 시간 10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
第一章 調査	할 일본 경기를 가지 않는데 그리고 있는데 그렇게 되었다.	**************************************
	f 画 の 概 要	*************************************
	場査団派遣の目的	
	制 査 の 方 法	4
	引査団の構成	
第6節 調	査期間及び日程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
	하는 것이 되었다. 그는 사이들을 하는 것으로 되는 것이 되는 것이 되었다. 하다는 것이 모든 것은 것은 것이다. 그는 사이들은 것을 통해 보았다는 것이 되었다는 것은 것은 것을 하는 것이 되었다.	
	マジェクトの成果と問題点	23
	場査の考え方と内容	
	H究活動の概要	24
	H究環境について	29
	(ンドネシア研究者の研究能力の開発	
	寺に学位取得制度への要望について-	
第5節 専	専門家の長期派遣に関連する問題	
	[16] [15] [16] [16] [16] [16] [16] [16] [16] [16	
	그는 한 그렇게 하는 회에 되게 되었다. 상태를 하는 사이들이 하는 사람들이 되는 가는 이 남은 이 없는 것	35
	インドネンアの農業研究、行政に与えたインバクト ·············	일 살아하다 하는 사람이다.
	ORIA 各部科におけるヒアリンク結果-現状と問題点-	
21 旅	그는 하게 하실 살이 속으로 하고도 그렇게 들어 들어 가지가 되었다. 이 사람들은 그는 그를 하게 잘 옮겼다면 걸어 다른 그들도	37
2.2 昆		は付われています。 こうかん 集会 ガモ ジャー・コース
	乍物 栄養科	and the solution when the first
2.4 作	"我们,我们看你看到这个人,我们就没有的人,我们就会一点,我们的人,我们就没有一个人,我们就没有一样的。""我们我们就会会会,我们就会会会会,我们就会会会会,我	
	ORIA 研究者に対するアンケート調査結果	79
第4節 旅	飛遣専門家からみた協力 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
		(4.4 形式) 外域的现在分词

14.5					and the second second			and the second
第四章	要約と勧) 告	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •				*******	9
第1節	要終	5 ••••••		····	•			9
第2節	勧せ			*******				9
4nán – ašc. j	0E-120 →n	سسيموا والعادة		La center				
	新協力プロシ						•	10
	新プロジュ						**********	10
第2節	日本原案例					2		10
第3節	新プロジェ	:クト実施に	至るスケ	ジュール	**********			10
R/D	署名チーム編	į	******		**********			10
	調査団の構成			** *** *** ***				11
1 18 E. 1								
	調査日程	the second control of						
第3節	R/D交渉紀		***********	***********	***********	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		1.1
	the state of the s							
第4節	R/D交渉結	导	**********					12
18 1 18 1 18 1 18 1 18 1 18 1 18 1 18	R / D 交渉結 新 R / D 本 対							
18 1 18 1 18 1 18 1 18 1 18 1 18 1 18								
第5節	新R/D本文							12
18 1 18 1 18 1 18 1 18 1 18 1 18 1 18	新R/D本文							
第5節	新R/D本交編	こ(英文及び	仮訳)					12
第5節 等	新R/D本交編	で(英文及び	仮訳)					12
第5節 等	新 R / D 本 交編	て(英文及び	仮訳)					12
第5節 等	新 R / D 本 交編	て(英文及び	仮訳)					12
第5節 等	新 R / D 本 交編	て(英文及び	仮訳)					12
第5節	新凡/D本文編	(英文及び	仮訳)			の できる (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)		12
第5節	新凡/D本文編	(英文及び	仮訳)			の できる (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)		12
第5節	新凡/D本文編	(英文及び	仮訳)			の できる (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)		12
第5節	新凡/D本文編	(英文及び	仮訳)			の できる (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)		12
第5節	新凡/D本文編	(英文及び	仮訳)			の できる (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)		12
第5節	新凡/D本文編	(英文及び	仮訳)			の できる (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)		12
第5節	新凡/D本文編	(英文及び	仮訳)			の できる (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)		12
第5節	新凡/D本文編	(英文及び	仮訳)			の できる (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)		12
第5節	新 R / D 本 交編	(英文及び	仮訳)			の できる (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)		12

I. エバリュエーション調査編第一章 調査団の派遣



第一章調査団の派遣

金额最大多量多数是混乱的是多数最后的现在分词

第1節 計画の概要

1. 「食用作物に関する日本・インドネシア共同研究計画(Japan-Indonesia Joint Food Crop Research Program)」は、1970年10月23日、日本・インドネシア共和国両国政府間において締結された協定に基づき、翌年3月の岩田吉人プロジェクトリーダー以下3名の派遣を緒にその実働を開始した。

· 经产品的的基本的推测器等。这种有效的,但是是

本計画は、インドネシア共和国ボゴール市(ジャカルタ市の南約60km)にあるインドネシア中央農業研究所(Central Research Institute for Agriculture; CRIA)の病虫部病理科及び生理部作物栄養科において、次の三つの研究課題を対象として実施された。

- ① 食用作物の主要病害の生態及び防除に関する研究
- ② 食用作物の主要病害の発生予察及びウィールス病媒介昆虫に関する研究
- ③ 食用作物の生理障害及び主要病害に関する研究

上記三課題は、中央農研所長及び岩田リーダーとの協議により、作物別、テーマ毎に更に 42 の細目(資料 4 参照)に分類されている。

これらの研究細目について、日本からの派遣専門家と中央農研の研究者とが、共同で研究活動を実施し、熱帯における基礎的農業研究の充実とデータの蓄積及び研究者の研究能力の向上 とを目的とするものである。

研究活動に必要な実験機器、試薬、参考文献等については、日本政府がJICAを通じて供 与し、また研究者の養成訓練、学会出席あるいはわが国の農業研究事情視察などを目的とした。 インドネシア人研究者のわが国への受入れ事業も、計画の大きな柱として実施している。

当初5ヶ年間の協力期間をもって運営された本計画は、1974年の巡回指導調査団(桜井団長他3名)によるプロジェクトのプリエバリコエーション及び、1975年6月に派遣したエドリコエーション調査団(平野団長以下4名)の調査結果と、インドネンア共和国政府からの強い延長要請に応えて、協力期間を3ケ年延長することとなった。その後の両国政府関係機関との間で行なわれた協議の結果、延長後は、これまでの協力対象分野に関連して、作物部栽培科及び病虫部昆虫科に対する協力も実施することに決定した。栽培科に対しては、昭和51年3月、昆虫科に対しては昭和52年1月、それぞれ1名の長期専門家が派遣された。

プロジェクト開始以来これまでに派遣した専門家の数は、リーダーの他に、植物病理、植物ウィルス、植物生理、作物及び昆虫の分野に、長期専門家11名、短期専門家12名となっている。また、この他に、供与機材の据付け調整のために派遣した技術者数は、11名に及んでいる。

第2節 調査団派遣の目的

計画の概要で触れたように、本プロジェクトの協定は、昭和53年10月22日をもって、8ヶ年の協力期間の満了を迎えることとなっている。すでに7ヶ年余の協力期間を通じて中央農業研究所の研究環境の整備はもとより研究者の研究水準も向上してきており、それらは、0RIAのContribution、Progress Report等の出版物や、学会、セミナー、シンポシウムでの発表という形で、一つ一つ成果として顕われてきている。こうした、研究成果について、プロジェクトの設立当初から、今日までの総括的な調査をすることが、本調査団の第一の目的とされた。

しかし、本計画においては、昭和49年11月桜井ウィルス研所長(当時)を団長とする。 プリエバリユエーション調査、昭和50年6月には平野団長(農研・生理第二科長)の下でエバリユエーション調査が実施されており、また、昭和52年11月には、松実東北農試次長を団長とする巡回指導チームにより、延長後の活動について、中間評価がなされている。

従って、今回の最終エパリユエーション調査は、以上の前3回の評価を基礎とした総括的な 評価を目的とした。

更に、本年度のインドネシア共和国援助要請リスト(BAPPENAS LIST)ATA 2 1 8をもって公式に要請のあった、現行協力に引き続いての新農業研究協力の協力形態と、協力開始までのスケジュールを、インドネシア政府関係機関(CRIA, AARD, 農業省官房計画局、BAPPENAS)と協議調整すること、及び、新協力の基礎となる。Record of Disscussions (R/D; 合意議事録)のdraftの検討調整を関係各機関を行なうことの2点も同様に、本調査団の目的とした。

第3節 調査の方法

本調査の目的は前節のとおり、(1)過去7ケ年余の研究協力事業の総括的評価と、(2)新研究協力プロジェクトの実施協議の二点とされた。

付託された調査事項は、大きく次の5点である。

- (1) 過去7ヶ年余にわたる研究協力事業の課題別・分野毎の活動実績
- (2) プロジェクトの実施に際して発生した問題点の要因分析とこれらを解決するための措置
- (3) ブロジェクトの実施により与えた、インドネンア研究行政へのインパクトあるいはインド ネンア農業技術に与えたインパクト
- (4) プロジェクトの残余期間に行なわれるべき活動及び新プロジェクトの要請背景とその内容
- (5) 新ブロジェクト開始に至るスケシュール及びR/Dの協議 以上の事項について、下記の方法により調査を実施した。
- (1) 過去に出版された報告書、研究発表 (セミナー、シンポジウム、学会)などの収集及び検討

- (2) カウンターパート、CRIAスタップ等からのヒアリング
- (3) 施設・設備、機器等の配置状況及び利用状況等の調査
- 14) AARD、BAPPENAS等政府関係機関との協議及び資料の収集

更に、日本側派遣専門家に対し、アトランダムにアンケート調査を実施し、今回の調査の補 完的参考資料とした。

第4節 調査団の構成

	氏	名		担 当	所 属 先
まつ 松	み実	しげ成	ただ忠	団長 兼植物生理	農林水産省東北農業試験場次長
	むら 村	しよう 彰	じ治	植物病理	農林水産省農業技術研究所病理科長
な奈	す須	そう 仕	ちょう 兆	昆 虫	農林水産省農業技術研究所病理 昆虫部発生予察研究室長
なか 中	华ま 山	かね 兼	のり 徳	作物栽培	農林水産省農事試験場畑作部作業体系第一研究室長
やま 山	もと 本	こう 公	めい 明	協力企画	農林水産省経済局国際協力課海外技術協力官
はし	もと 本	えい 栄	し治	業務調整	国際協力事業団 農業開発協力部 農業技術協力課

筆ら節 関係者リスト

I 国家開発企画庁

Dr, Rukasah (農業担当局長)

Miss. Ratna (農業担当)

Ⅱ 農業省

(1) 食用作物総局

Mr. Wardoyo (食用作物総局長)

(2) 農業研究開発庁 (Agency for Agricultural Research and

Development: AARD)

Mr. Sadikin Sumintawikarta (長 官)

Dr. Sampet Tonapa (農業統計官)

Mr. Bambang Suyoto (財政担当)

(3) 中央農研究所 (Central Research Institute for Agriculture i

ORIA)

Dr. Rusli Hakim (所 長)

Dr. Suryatna Effendi (次 長)

Dr. Soebyanto (援助担当)

Dr. Purbowo ("

作物部 (Division of Agronomy)

1. Rice Agronomy

Staff : 1. Ir. Soetjipto Partohardjono

- 2. Drs, Haeruddin T. MSc.
- 3. Ir. Ab-Fatah (JKT Cooperasi)
- 4. Muzakir Pagi MSc. (tr. PhD : IRRI)
- 5. Ir. Ruchiat Damanhuri
- 6. Ir. Boy Sarwono
- 7. Ir. B. Taslim Gumala*
- 8. Ir. Hendrik Virgilius*
- 9. Ir. Suparji*

Assistant: 1. Kosman Ea. (tr.: IRRI)

- 2. Salip
- 3. Aris Munandar* (IPB student)
- 4. Bastaman*

2. Rice Breeding

Staff: 1. Dr. Harahap

- 2. Dr. B. H. Siwi
- 3. Dr. S. Subiyanto
- 4. Mr. Sirdan MSc.
- 5. Mr. Ibrahim Sahi
- 6. Mr. Soetjipto Kr. BSc.
- 7. Ir. Iwin Hadisyahban
- 8. Ir. Bambang Kustianto
- 9. Ir. Suwito
- 10. Ir. Suwarno*
- 11. Ir. Sudiati S*

Assistant: 1. Muslihat

- 2. Adiyono
- 3. Ulfah Marsum
- 4. Hadis Siregar
- 5. Gusminar
- 6. Haryanto
- 7. Buang Abdulah*

Tangan na haifiya hija ta

3. Herbicide

- Staff : 1. Ir. Sundaru (Head of Div. of Agronomy)
 - 2. Drs. W. Sabe Ardjasa (Lampung)
 - 3. Ir. Hamdan Pane* (tr. MSc. : IRRI)

- 4. Ir. Agus Sudiman*
- 5. Ir. Pirman Bangun*
- 6. Drs. Tantono Subagyo
- Assistant: 1. Effendi Partasasmita
 - 2. Sutisna Noor

4. Corn Agronomy

- Staff: 1. Ir. Iskandar
 - 2. Ir. Sutono*
- Assistant: 1. Abdul Kodir
 - 2. E. Muchtar*
 - 3. Nana Gartina*

5. Corn Breeding

- A. Corn breeding
- Staff : 1. Ir. Amsir Rifin
 - 2. Ir. Achmad Sudjana
 - 3. Ir. Sri Gayatri B.
 - 4. Ir. Suyitno*
- Assistant: 1. Achmad Nur Effendi
 - 2. Dian Hadian*
 - 3. Rudi Setiono BSc.

B. Sorghum breeding

- Staff: 1. Ismu Sukanto S. MSc.
 - 2. Ir. Soekarno Roesmarkam*
- Assistant: 1. Endang Muchlis
- C. Wheat breeding
- Staff : 1. Ir. Wayan Kastama

Assistant: 1. R. Kusmana*

6. Tuber Crops

Staff : 1. R. Soenaryo MSc.

2. J. Wargiono BSc.

Assistant: 1. Sumaryono*

2. Soedradjat*

7. Legume Crops

Staff : 1. Fredy Tangkuman, BSc. (tr.: England)

2. Ig. V. Sutarto, BSc.

3. Ir. Novianti Sunarlim*

(Karabil)

4. Ir. Sarlan Abdulrachman* (tr. : Taiwan)

5. Ir. Sri Hutami*

Assistant: 1. Wawan Gunawan

2. Mulyoto*

A. Soybean breeding

Staff : 1. Ir. Darman M. (tr. : Taiwan)

2. Sumarno BSc.* (tr.: USA)

3. Ir. Achmad Dimyati*

4. Astanto BSc.

Assistant: 1. Rodiah Sumarno

2. Ono Sutrisno*

B. Peanuts

Staff : 1. Ir. Sri Astuti Rais*

2. Ir. Rahayuningsih*

Assistant: 1. Muchridansyah Sino

2. Lasimin Sumarsono

C. Mungbean

Staff : 1. Drs. A. Rasyld M.

2. Tateng Sutarman, BSc. (IPB)

Assistant: 1. Lukman Hakim

8. Multiple Cropping

Staff : 1. Ir. Endang Suhartati*

2. Ir. Djuber Pasaribu* (tr : IRRI)

3. Ir. Herman Supriadi* (Indramayu)

4. Ir. Markamah Badrudin*

5. Ir. Imtiaz (Bandarjaya)

6. Asep Saefudin (Indramayu)

Assistant: 1. Unang Gunara*

2. Subrata*

9. Chemical Analysis

1. Lalu Sukarno BSc.

10. Consultant of Div. of Agronomy (former director)

1. Mr. H. Siregar (Rice breeding)

2. Mr. Dahro (Legume breeding)

3. Ir. Suharsono (Multiple cropping)

Note: *Person entered in Div. of Agronomy after the extention of the Program, Oct. 1975.

(Division of Pests and Diseases)

a. Subdivision of Plant Pathology (病理科)

1. Virology

San in the transfer in

| 病虫部

Staff : 1. Dr. D. M. Tantera (Head of Subdivision)

el el recolte de la selle

y contactific

January Carlos

金属 建二二烷基

- 2. Ir. Roechan
- 3. Ir. Nasir Saleh*

Jan Ang Majarah

4. Jumanto*

Assistant : 1. P. Warsidi Hadi

2. M. Muchsin

2. Bacteriology

Staff : 1. Drs. Muhammad Machmud (tr MSc. : UP)

Literation and water a

- 2. Dra. Nunung H. Achmad (BLS)
 - 3. Ir. Hartini Ramian H. (BLB)

Assistant: 1. Suparman (BLS)

2. Soma Mihardja (BLB)

3. Mycology

Staff : 1. Ir. Mukelar Amir (blast, Cercospora)

- 2. Drs. M. Sudjadi (Corn downy mildew) (tr. MSc.: IPB)
- 3. Drs. M. Kosim Kardin (SB, panicle blight, stem rot)
 - 4. Dra. Masdiar*

Assistant: 1. Otjim Sumantri (blast, Cercospora)

- 2. R. M. Enoch (do
- 3. M. Yusuf (Corn downy mildew)
- 4. Wagiman (SB, panicle blight, stem rot)
- 5. Eddy Soetarwo (GEU, Screening)

4. Nematology

Staff : 1. Ir. M. Herman*

Note: * Person entered in Subdiv. of Plant Pathology after the extension of the Program, Oct. 1975.

b. Subdivision of Entomology (昆虫科)

1. Rice pests

- Staff : 1. Dr. Ir. Soehardjan (Head of Div. of Pests and Diseases) (stem borer)
 - 2. Dr. Ir. 1. N. Oka (brown planthopper, biotype)
 - 3. Ir. Sujitno (stem borer)
 - 4. Ir. Suartini (brown planthopper, varietal resistance)
 - 5. Ir. Edi Sunaryo (gall midge, ecology)
 - 6. Ir. Arifin K. (gall midge, varietal resistance)
- Assistant: 1. Sugiarto (stem borer)
 - Waluyo (stem borer)
 - 3. Panhur S. (stem borer)
 - 4. I. N. Della D. (brown planthopper, biotype)
 - 5. Tutu T.* (brown planthopper, var. resistance)
 - 6. Sri Hartati (do)
 - 7. Akbar (gall midge, ecology)
 - 8. Sukar (do)

2. Secondary Crops Pests

- Staff : 1. Wedanimbi Tengkano
 - 2. Budihardjo S.* (corn pest)
 - 3. Harnoto (pesticide of soybean pest)
- Assistant: 1. Suganda
 - 2. Sutarno

3. Cropping System

- Staff : 1. Soegiyanto
 - 2. Ir. Ruhendi

Taxonomy

- Staff : Ir. Sri Suharni Siwi
- Assistant: Tarso Sumpena*

-5. <u>Rat</u>

Staff : 1. Ir. Roechman

2. Ir. Toto Djuwarso*

Assistant: 1. Koharudin

2. Suwalan

6. Pesticides

Staff : 1. Dani Sukarna (rice pesticide)

2. Panudju (riće pesticide)

Acceptable section (199

Assistant: 1. Asep Sutisna

2. Noto Prasodjo

3, Sumardi

4. Warsi

7. Toxicology

Staff : 1. Dr. Ir. Moh. Iman

2. Ir. Djatnika Kilin

3. Ir. Soetrisno*

Assistant: 1. Agam Dahlan

2. Kobarsih

Note: * Person entered in Subdivision of Entomology after the extension of the Program, Oct. 1975.

Ⅲ 作物生理部 Division of Plant Physiology

Mrs. Palansih Isbagijo (Head of Div. of Plant Physiology)

Subdivision of Plant Nutrition (作物栄養科)

第600年在一份投资支票公司。

1. Rice

Staff : 1. Ir. M. Ismunadji (Head of Subdivision)

- 2. Iskandar Zulkarnaini MSc.
- 3. Dra. Sismiyati Roechan
- 4. Ir. A. Karim Makarim
- 5. Ir. Irwan Nasution*

Assistant: 1. Ponimin

- 2. W. Sukirno
- 3. 0. Sudarman
- 4. Rahmat Suhadi

2. Corn

Staff : 1. Dra. Ratna Fathan

Assistant: 1. Mono Rahardjo

3. Legumes and multiple cropping

Staff : 1. Drs. Fatchurochim (tr. MSc.: UP)

2. Drs. Murtado*

Assistant: 1. A. Choliludin

4. Legumes

Staff : 1. Ir. Siti Ningrum

Assistant: 1. Sutedjo

5. Tuber Crops

Staff : 1. Drs. M. Djazuli*

Assistant: 1. Carwa

6. Microbiology

Staff : 1. Dra. Herawati*

7. Chemical analysis

Staff : 1. L. N. Hakim BSc. (plant)

2. A. Hidayat BSc. (soil)

3. B. Surono BSc. (organic compound)

Assistant: 1. Hafid

2. N. Priatna

3. Ayub

4. Y. Maryati

5. S. Hulaemi

Note: * Person entered in Subdiv. of Plant Nutrition after the extension of the Program, Oct. 1975.

第6節 調査期間及び日程

- :	til a try a Til a try a		及び日 程 6日から7月25日まで 20日間	
<i>N</i> 6.	月日	曜日	.	宿泊地
1.	7, 6	*	1. 東京 ジャカルタ JL711便 2. 調査日程打合せ チーム6名 岩田プロジェクトリーダー、石川書記官、 宮下JICA事務所員	Jakarta
2.	7. 7	金	 1. 農業研究開発庁(AARD)表敬訪問 (Sadikin長官不在の為、Dr. Sampet Tonapa (農業統計官)に表敬) チーム6名 岩田プロジェクトリーダー、石川書記官 	
			2. 国家企画庁(BAPPENAS)表敬訪問 <日本側>	
			・岩田プロジェクトリーダー (BAPPENAS) ・石川書記官 ・Miss Ratna (")	
			•Mr. Wardoyo (漫業省食用作物 総局長)	Jakarta
3.	7. 8	土	1. JICA ジャカルタ事務所にて調査内容・日程打合セ チーム6名 岩田プロジェクトリーダー、宮本所長、	
			宮下所員 2. 大使官表敬訪問 熊谷公便、為季書記官、石川書記官、チーム6名	
			岩田プロジェクトリーダー 3. 移動(シャカルタ→チボゴ)	Cibogo
4.	7. 9	В		Cibogo
5.	7.10	月	1. 中央農業研究所 (C R I A)表敬訪問 ① C R I A の概要及び役割 ② 調査スケシュールの調整	

Лб.	月日	曜日	•		宿泊地
			③ New Project R/D draftの提	亦	
7			<日本側> <インドネシア側>		
			・チーム 6名 ・Dr. Rus li	(ORIA所長)	
.1.			・岩田プロジェクトリーダー ・Dr. Effendi	(" 次長)	
			·須崎専門家 ·Mr. Sundaru	(作物部長)	
			・織田専門家 ・Dr. Subrdjaan	(病虫部長)	
			Mrs. Paransih	(生理部長)	
			Dr. Soebyanto	(援助担当)	
$\frac{\gamma_0}{\gamma_1 T_2}$			Dr. Purbowo	こなりには 突ばれ リカ 発力	
			Mr. Haernddin		
			·Mri Soctipto	프로토 시간 시작하다	
			•Dr. Tantera		
			Dr. Iman		
			·Mr. I smundji	. Kabupatèn Barangan	
			2 日本入専門家チームとのmeeting		
		3	① 調査の目的、内容及び方法について		
			② 各協力分野の活動状況について		Cibogo
 		<u> </u>			
6.	7.11	火	1. 日本人専門家チームとのmeeting		
			① 協力分野毎の研究テーマ及び進捗状況	こついて	
		Ka 9	② 研究報告(Publication, Seminar,	Symposium	
			etc)を中心とした Evaluation Table (の作成	Cibogo
· · · · ·					
7.	7.1.2	水	1. New Project R/D draft について	CRIAとの討	
i			① R/D drftの概要及び構成について		
			う 遂条討議		
			<日本側> <cria側></cria側>		
			・チーム6名 Dr. Soebyant	o	
			・岩田プロジェクトリーダー Dr. Purbowo		
• •		\$ 0 t 4 1	・織田専門家 Mr. Sundaru		
			Dr. Suhardja.	in:	
,e so	les e le jo		Mrs. Palansi		
 			Mr. Soctipto		

No.	月日	曜日	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	宿泊地
			Mr. Haeruddin	
			Dr. Tantera	
			Dr. Iman	
			2. 病虫部、昆虫科スタッフとのmeeting	
			及び研究施設視察	
			〈日本側〉 〈CRIA側〉	
			・チーム 6名 Dr. Suhardjaan (病虫部長)	
			・岩田プロジェクトリーダー Dr. Dandi Sukarna	
			・織田専門家 他 スタッフ 4 名	Cibogo
				Crooge
8	7. 1 3	木	1. 生理部、作物栄養科スタッフとの meeting	
ľ			及び研究施設視察	
			<日本側> <c a="" i="" r="" 側=""></c>	
			[1] 하는 사고 되었다. 그리고 있는 그는 다른 하는 사람들은 하는 사람들이 가는 사람들이 뭐 먹고 그렇게 하다.	
			・チーム6名 ・Mrs. Paransih (生理部長)	
			・岩田プロジェクトリーダー ・Mr 、Ismunadji(作業科長)	.
			・西尾専門家 他 スタッフ 3 名	Cibog
			the first the first and the second	
9.	7.14	金	1. 病虫部、病理科スタッフとのmeeting	
			及び研究施設視察	
			<日本側> <cria側></cria側>	
			・チーム6名 · Dr. Tantera (病理科長)	
			・岩田プロジェクトリーダー 他 スタッフ 7 名	
			···· 江塚専門家	
			一次,若木専門家	Cibogo
10	7.15	土	1. 移動 (チボゴ→ボゴール)	
			2. 作物部作物科スタッフとのmeeting	
		1	及び圃場、研究施設視察	
			<日本側> <cria側></cria側>	
			<日本側> <cria側></cria側>	

No.	月	Ð	曜日	#	J	宿泊地]
				3. Muara試験地視察]
				<日本側>	<oria側></oria側>		
				・チーム6名	·Dr · Sahi		
				•岩田 リーダー	·Mr · Soctipto		
				•須崎專門家	他 スタッフ 2名		
- 1 (P)	42			4. 調査団主催夕食会		Bogor	
1 1.	7.1	6	B				
¥1						Bogor	
1 2.	7. 1	7	月。	1. Brief Report 作	트리 (1221년 1일 - 12일 - 12일 대한 4년 4일 전 12일 - 12일 대한 4년 1		
				2. 病虫部昆虫科補足調查	살으면 하면 그는 이렇게 하고 있는 것이 되었다.		
				3. 作物科セミナー (中)		Bogor	Tak Tak
1 3.	7 1	8	火	i Brief Report 作	哎		
				2. 作物部作物科補足調查			
				3. 病理科セミナー (吉村団員)		
				4. 山本団員移動(ボゴー	ル→ジャカルタ)	Bogor	
14.			水	1. CRIAスタッフ、専門]家チームとの General		
				mecting			
				엄마 그 아이는 사람들이 아름다는 다른 아이들까?	ンドネシア側>		
					s. Rus la		
					r. Soebyant		
				본어 그리 일반 시민 주민학생으로 느껴왔는 후	Purbowo		
					r. Sulyadi (農業省官房計画局)		
					r. Sayoso (AARD)		
				병기에 가고 가지가 하게 가다.	- Sundaru		
					· Suhardjaan		
		4. T			rs. Palansih		
					. Soetipto		
					r. Haeruddin		
				[2011] - [11] 전 경기 등 1 등 1 등 1 등 1 등 1 등 1 등 1 등 1 등 1 등	r Tantera		
					i Iman		
. j [2]()				・M ① 調査結果概要報告及び	r Ísmunadji K≅⊬sæ		
		- ()		少 阿且·帕木粥 安報 古 久 C			

· · · · · · · · · · · ·	6.	月日	曜日	The state of the s	宿泊地
				② New Project R/D draft について討議	
				2. AARD Sadikin 長官主催夕食会	Bogor
				3. 山本団長 ジャカルタ→東京 C×710-C×500	
1	5.	7. 2 0	木	1. Final Brief Report 作成	
				2. Evaluation Table 作成	Bogor
1	6.	7. 2 1	金	1. Brief Report of Evaluation on Indonesia-	
				Japan Joint Food Crop Research Program [®] Ø	
				CRIAへの提出	
				2. 移動 (ボゴール→シャカルタ)	Jakarta
1	7.	7.22	土	1. JICAジャカルタ事務所への調査結果報告	
				2. 大使館への調査結果報告及び帰国挨拶	Jakarta
1	8.	7.23	日		
					Jakarta
1	9.	7.2 4	月	1 BAPPENASへの調査結果報告及びNew Project	
				について討議	
				<日本側> <bappenas></bappenas>	
		; ;		・チーム5名 ・Dr. Rukasah	
				・岩田リーダー ・Miss. Ratna	
1				•石川書記官	
				• 宮本所長	
				2 AARDへの調査結果報告及びNew Project につい	
				て討議に、それに対し、これに対し、	
				<日本側> <aard></aard>	
				・サーム5名 ·Mr. Sadikin	
				・岩田リーダー ・Dr. Sampet Tonapa	
	3. 3. 3.			•Mr. Bambang Suyoto (財政)	Jakarta
2	0.	7.2 5	火	1. ジャカルタ → 香 港 C×710便	
				香 港 → 東 京 C×5.00便	